

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 6月19日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300022

研究課題名(和文) 少数言語のドキュメンテーションと、エチオピア諸言語のダイナミズムに関する調査研究

研究課題名(英文) Documentation of Minority Languages and the Dynamism of Ethiopian Languages

研究代表者

乾 秀行 (Hideyuki, Inui)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：10241754

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：エチオピアの少数言語の文法記述とドキュメンテーションを作成するため、アジスアベバ大学のエチオピア人研究者と共同で現地調査を行い、オモ系(バスケット語、ディメ語、ハマル語、カラ語)、セム系(マスカン語)、クシ系(アルボレ語、ハディーヤ語、アツレ語)、ニールサハラ系(ニャンガトム語、コウェグ語、ベルタ語)の使用状況を記録した動画・音声データ(モノログ、民話、なぞなぞ)を収集し、動画編集ソフトELANを使ってIPA転写、語釈、翻訳をつけた。言語ダイナミズムの分析をするため、エチオピア学研究所図書館で少数言語の文献資料を集めると共に、エチオピアの少数言語の母語教育について調査し、データベース化した。

研究成果の概要(英文)：With Ethiopian researchers of Addis Ababa University we conducted research on minority languages in Ethiopia. We collected video and audio documentation of oral literature and folklore in Omotic (Basketo, Dime, Hamar and Kara), Semitic (Mesqan), Cushitic (Arbore, Hadiyya and 'Ale) and Nilo-Saharan (Nyangatom, Kowegu and Berta) languages, described their grammars, and made transcriptions, glosses and translations using ELAN which is a professional tool for the creation of complex annotations of video and audio resources.

We analysed language dynamism in Ethiopia and made a database of minority languages, by collecting literature on them from the library of the Institute of Ethiopian Studies in Addis Ababa University and by researching mother tongue education in them in Ethiopia.

研究分野：人文学

キーワード：少数言語 エチオピア ドキュメンテーション 言語ダイナミズム GIS

### 1. 研究開始当初の背景

平成13年度より現在まで10年あまり、研究代表者を中心としたグループは、科学研究費補助金を受けて、エチオピア諸言語の中でとりわけ研究が遅れ、また早急に調査が必要とされる少数言語の基礎語彙や文法に関する記述研究を精力的に行ってきた。また、単に記述を目的とした静態面だけでなく、少数言語が生き延びるための動態面の解明にも積極的に取り組んできた。

データベース化に関しては、GIS(地理情報システム)を用いたエチオピアのデジタル言語地図を作製し、ウェブ上で言語特徴に関して複数属性検索できるシステムを開発し、改良を重ねてきた。またデジタル地図上の各言語のポリゴンにはハイパーリンク機能によりそれぞれの言語毎のXMLで記述されたHPと繋がり、より詳しい言語データを参照することが可能な仕組みを構築した。

ところで少数言語の調査する中で、アムハラ語からの借用語や隣接言語の語彙が数多く観察され、文法の中にも少なからぬ言語接触の証拠が見つかった。少数言語が今後生き延びていくためには、近隣有力言語との共存共生は必須である。そこで本研究では、この点を重視し、少数言語話者の自然な語り(ドキュメンテーション)の中にどの程度アムハラ語や隣接言語が出現し、その結果少数言語の変容がどのように起こっているのかを分析することを通して、エチオピア諸言語の動態を調査することを研究の中心に据えるという着想に至った。

### 2. 研究の目的

(1) エチオピアの少数言語を対象に、語彙や文法の収集に加え、語り(モノログ・ダイアログ)の language documentation を動画データとして収集し、それを分析することを通して、理論的、類型論的、歴史的研究に新たな知見を提供すると共に、少数言語の記録保存を行う。

(2) 現地調査のデータ及びアジスアベバ大学図書館等の過去のエチオピア諸言語の文献データを包括的に分析することを通して、少数言語がエチオピアの作業語であるアムハラ語および地域有力言語とどう共存共生していくのか、エチオピア諸言語のダイナミズムの調査研究を行う。

(3) 収集した様々な言語データをこれまで開発したGISによるデジタル言語地図に反映させてデータベースを構築し、国内外の研究者や少数言語母語話者に対して利用できる形で情報公開していく。

### 3. 研究の方法

本研究は、エチオピアの少数言語のデータを収集する現地調査班、エチオピアの言語ダイナミズムを研究する言語動態班、データベース公開について検討するデータベース構築班の3つの組織に分かれて行う。

(1) 現地調査班は、エチオピア西南部の都市ブタジラ、アルバミンチ、ジンカ、ニャンガトム等でビデオカメラを使って language documentation の観点で語り(モノログ、ダイアログ)を動画データで収集し、IPAによる音転写、語釈、翻訳を作成する。

(2) 言語動態班は、アジスアベバ大学エチオピア学研究所(Institute of Ethiopian Studies, 以下 IES)図書館所蔵の文献(公刊されていない学位論文が対象)から、エチオピア諸言語のデータを取り出して整理し、デジタル化する。また、少数言語がアムハラ語などのエチオピアの大言語とどう共存共生していくのか、言語ダイナミズムの分析をするため、現地調査班が収集したデータを分析すると共に、エチオピア国内の研究機関に赴き、母語教育に関しての調査研究をする。

(3) データベース構築班は、現地調査班が収集した動画データを含んだ言語データを管理するため、文学資料をデジタル化するための国際的ガイドラインである TEI(Text Encoding Initiative)形式(XHTMLと同じXMLベースの形式)を用いたデータベースの骨格を作り、GISを用いたエチオピアのデジタル言語地図と連携した情報発信システムを構築する。

(4) 社会貢献の一環として、エチオピアにおける日本人研究者及び事業者のために、エチオピアの作業語であるアムハラ語の入門書を作成し、国内関係機関に配布する。

### 4. 研究成果

#### (1) ドキュメンテーション

エチオピアの少数言語の language documentation を作成するため、アジスアベバ大学のエチオピア人研究者と共同で現地調査を重ね、オモ系(バスケット語、ディメ語、ハマル語、カラ語)、セム系(マスカン語)、クシ系(アルボレ語、アツレ語、ハディーヤ語)、ナイルサハラ系(ニャンガトム語、コウエグ語)の使用状況を記録した動画・音声データ(モノログ、民話、なぞなぞ)を収集し、動画編集ソフト ELAN を使って IPA 転写、語釈、翻訳をつけた。

#### (2) 言語ダイナミズム

少数言語がエチオピアの作業語であるアムハラ語および地域有力言語とどう共存共生していくのか、言語ダイナミズムの分析をするため、少数言語の教科書を入手して母語教育について調査すると共に、IESで学位論文等の文献データを収集し、また複数の文献資料を参考に1990年以降のエチオピア諸言語の文献リストの作成を行った。さらに、SIL(Summer Institute of Linguistics)エチオピア支部で、SILとエチオピア政府・教育省がこれまで行ってきた言語記述・母語教育開発についてエチオピア諸語研究者と意見交換すると共に、SIL 附属図書館にてエチオピア諸語の文献調査を行った。

#### (3) データベース

エチオピア諸言語に関する基本情報データベースと、それぞれの言語に関する研究文献データベースを統合した。このデータベースと GIS を用いたエチオピア諸言語地図、TEI (Text Encoding Initiative: 人文学資料をデジタル化するための国際的ガイドライン) に準拠したタグ付けデータ集、動画サイトに設置した動画集を連携させ、ドキュメンテーションの一般公開に向け、動画の字幕、データの加工に適した ELAN/EML データと、YouTube など動画サイトでの配信に適したデータを作成した。

(4) 社会的貢献

社会的貢献活動として、既刊「アムハラ語入門」の改訂版を完成させ、国内研究機関に送付した。

(5) 研究成果

国際学会(19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies, 8<sup>th</sup> World Congress of African Linguistics, 1<sup>st</sup> International Conference on Omotic Studies)及び電子ジャーナル Studies in Ethiopian Languages (ISSN: 2187-1388)などで発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

1. Hideyuki INUI, The tense-aspect system of Basketo, Journal of General Linguistics, 査読有、20、2017、1-35
2. Hideyuki INUI, Converbs in Basketo, Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics Kyoto 2015, 査読有、ILCAA、2017、181-194
3. Jun IKEDA, Documentation of the Masqan language (1): A Folktale, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、6、2017、77-86
4. 仲尾 周一郎, ベニシヤングル・アラビア語に関する覚書 (1), Studies in Ethiopian Languages, 査読有、6、2017、21-43
5. 池田 潤, マスカン語の基礎語彙 1000, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、5、2016、96-129
6. 高橋 洋成, カラ語の基礎語彙 600, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、5、2016、36-65
7. 乾 秀行, 私の言語研究～エチオピアでの出会いと別れ, JANES ニュースレター、査読無、23、2016、15-17
8. 小脇 光男, フィールドワークを体験して, JANES ニュースレター、査読無、23、2016、18-21
9. 高橋 洋成, ハマル語の研究～古代と現代の接点を求めて～, JANES ニュースレター、査読無、23、2016、3-6
10. 池田 潤, 桐越 舞、川邊 貴英、ヘブライ文字黙読課題における N170 と P250、

実験音声学・言語学研究、査読有、7、2015、65-74

11. Yona TAKAHASHI, A Small Dictionary of Hamar: with Some Lexical Notes on Banna and Karo, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、4、2015、35-75

12. 乾 秀行, バスケト語テキストー言語接触と言語変容ー, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、3、2014、1-23

13. 乾 秀行, コウエグ語の文法スケッチ, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、3、2014、24-49

14. 高橋 洋成, ハマル語のモダリティに関する試論, Studies in Ethiopian Languages, 査読有、3、2014、50-70

〔学会発表〕(計 5 件)

1. Hideyuki INUI, Spatial Deitic Expressions in Basketo, The 1st International Conference on Omotic Studies (招待講演) (国際学会)、2018年1月26日、Wolaita Soddo University (Ethiopia, Soddo)

2. Yona TAKAHASHI, Verbal Morphotactics of Kara, The 1st International Conference on Omotic Studies (招待講演) (国際学会)、2018年1月26日、Wolaita Soddo University (Ethiopia, Soddo)

3. 乾 秀行, バスケト語の空間指示表現、第25回日本ナイル・エチオピア学会学術大会、2017年04月17日、滋賀県高島市白浜荘

4. Hideyuki INUI, From Information Structure, Topic and Focus in Basketo, 19th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会) 2015年08月25日、Warsaw University (Poland, Warsaw)

5. Hideyuki INUI, Converbs in Basketo, 8th World Congress of African Linguistics (国際学会) 2015年08月21日、京都大学百周年時計台記念館(京都府、京都市)

〔図書〕(計 1 件)

柘植 洋一「エチオピアの諸言語への手引き アムハラ語入門 改訂新版」(2018)、127 ページ、山口大学

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

Studies in Ethiopian Languages

<http://ds22n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~abesha/SEL/>

Studies in Ethiopian Languages (mirror)

<http://jael.info/SEL/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

乾 秀行 (Hideyuki INUI)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号： 10241754

### (2) 研究分担者

池田 潤 (Jun IKEDA)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号： 60288850

小脇 光男 (Mitsuo KOWAKI)

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号： 30136030

高橋 洋成 (Yona TAKAHASHI)

東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化  
研究所・研究員

研究者番号： 90647702

### (3) 連携研究者

柘植 洋一 (Yoichi TSUGE)

金沢大学・名誉教授

研究者番号： 50092276

仲尾 周一郎 (Syuichiro NAKAO)

大阪大学・言語文化研究科・助教

研究者番号： 10750359

### (4) 研究協力者

二ノ宮 崇司 (Takashi NINOMIYA)

岩月 真也 (Shinya IWATSUKI)

吉野 浩志 (Hiroshi YOSHINO)

原 将吾 (Shogo HARA)

Moges Yigezu

Binyam Sisay Mendisu

Mulugeta Seyoum